

2023年度春学期 海外留学プログラムの実施状況

新型コロナウイルス感染症の世界的流行による実施時の安全性や研修校での受入状況等を勘案し、大学主催のプログラムは20年度以降昨年度まで、全面的な渡航再開には至らなかった。長期留学期留学はオンラインでの留学プログラムの実施を継続し、22年度には一部で渡航を伴う形で学生を派遣した。

今年度については、昨年度より世界各国で留学実施時の安全性や研修校での受入状況等を勘案し、大学主催のプログラムは20年度以降昨年度まで、全面的な渡航再開には至らなかった。長期留学期留学はオンラインでの留学プログラムの実施を継続し、22年度には一部で渡航を伴う形で学生を派遣した。

今年度より世界各国で留学実施時の安全性や研修校での受入状況等を勘案し、大学主催のプログラムは20年度以降昨年度まで、全面的な渡航再開には至らなかった。長期留学期留学はオンラインでの留学プログラムの実施を継続し、22年度には一部で渡航を伴う形で学生を派遣した。

今年度については、昨年度より世界各国で留学実施時の安全性や研修校での受入状況等を勘案し、大学主催のプログラムは20年度以降昨年度まで、全面的な渡航再開には至らなかった。長期留学期留学はオンラインでの留学プログラムの実施を継続し、22年度には一部で渡航を伴う形で学生を派遣した。

今年度より世界各国で留学実施時の安全性や研修校での受入状況等を勘案し、大学主催のプログラムは20年度以降昨年度まで、全面的な渡航再開には至らなかった。長期留学期留学はオンラインでの留学プログラムの実施を継続し、22年度には一部で渡航を伴う形で学生を派遣した。

今年度については、昨年度より世界各国で留学実施時の安全性や研修校での受入状況等を勘案し、大学主催のプログラムは20年度以降昨年度まで、全面的な渡航再開には至らなかった。長期留学期留学はオンラインでの留学プログラムの実施を継続し、22年度には一部で渡航を伴う形で学生を派遣した。

今年度より世界各国で留学実施時の安全性や研修校での受入状況等を勘案し、大学主催のプログラムは20年度以降昨年度まで、全面的な渡航再開には至らなかった。長期留学期留学はオンラインでの留学プログラムの実施を継続し、22年度には一部で渡航を伴う形で学生を派遣した。

今年度については、昨年度より世界各国で留学実施時の安全性や研修校での受入状況等を勘案し、大学主催のプログラムは20年度以降昨年度まで、全面的な渡航再開には至らなかった。長期留学期留学はオンラインでの留学プログラムの実施を継続し、22年度には一部で渡航を伴う形で学生を派遣した。

今年度より世界各国で留学実施時の安全性や研修校での受入状況等を勘案し、大学主催のプログラムは20年度以降昨年度まで、全面的な渡航再開には至らなかった。長期留学期留学はオンラインでの留学プログラムの実施を継続し、22年度には一部で渡航を伴う形で学生を派遣した。

今年度については、昨年度より世界各国で留学実施時の安全性や研修校での受入状況等を勘案し、大学主催のプログラムは20年度以降昨年度まで、全面的な渡航再開には至らなかった。長期留学期留学はオンラインでの留学プログラムの実施を継続し、22年度には一部で渡航を伴う形で学生を派遣した。

今年度より世界各国で留学実施時の安全性や研修校での受入状況等を勘案し、大学主催のプログラムは20年度以降昨年度まで、全面的な渡航再開には至らなかった。長期留学期留学はオンラインでの留学プログラムの実施を継続し、22年度には一部で渡航を伴う形で学生を派遣した。

今年度については、昨年度より世界各国で留学実施時の安全性や研修校での受入状況等を勘案し、大学主催のプログラムは20年度以降昨年度まで、全面的な渡航再開には至らなかった。長期留学期留学はオンラインでの留学プログラムの実施を継続し、22年度には一部で渡航を伴う形で学生を派遣した。

今年度より世界各国で留学実施時の安全性や研修校での受入状況等を勘案し、大学主催のプログラムは20年度以降昨年度まで、全面的な渡航再開には至らなかった。長期留学期留学はオンラインでの留学プログラムの実施を継続し、22年度には一部で渡航を伴う形で学生を派遣した。

今年度については、昨年度より世界各国で留学実施時の安全性や研修校での受入状況等を勘案し、大学主催のプログラムは20年度以降昨年度まで、全面的な渡航再開には至らなかった。長期留学期留学はオンラインでの留学プログラムの実施を継続し、22年度には一部で渡航を伴う形で学生を派遣した。

今年度より世界各国で留学実施時の安全性や研修校での受入状況等を勘案し、大学主催のプログラムは20年度以降昨年度まで、全面的な渡航再開には至らなかった。長期留学期留学はオンラインでの留学プログラムの実施を継続し、22年度には一部で渡航を伴う形で学生を派遣した。

今年度については、昨年度より世界各国で留学実施時の安全性や研修校での受入状況等を勘案し、大学主催のプログラムは20年度以降昨年度まで、全面的な渡航再開には至らなかった。長期留学期留学はオンラインでの留学プログラムの実施を継続し、22年度には一部で渡航を伴う形で学生を派遣した。

多様性に満ちたグローバルな働き方を学ぶことが出来る。夏期休暇中実施のプログラムは、例年4月頃に公開する募集要項で詳細をお知らせする。また、国際開発金融機関の一つである米州開発銀行(IIDB)及び国際連合食糧農業機関(FAO)とインターンシップに関する協定を締結した。IIDBは中南米・カリブ加盟諸国の経済・社会発展に貢献することを目的として設立され、本部はワシントンDCに所在する。FAOは、世界の経済の発展および人類の飢餓からの解放を目的として設立された国際連合

の専門機関であり、本部門はローマにある。両機関とのインターンシップは、来年3月頃開始の想定で協議しており、準備ができた次第募集を開始する予定である。

なお、記載のとおり海外留学における状況はコロナ前の水準に回復したものの、さまざまな感染症や治安面でのリスク、自身の危機管理対応能力の有無なども慎重に見極めながら、渡航計画を検討することが不可欠である。留学希望者は現地状況の情報収集を積極的に行うなど自覚を持って留学してほしい。

6月30日から7月21日の間、海外学生向け短期プログラムの実施状況を報告する。今年度は4年ぶりの対面開催となり、104カ国の国と地域から156人が参加した。

23年度は4年ぶりの対面開催となり、104カ国の国と地域から156人が参加があった。日本や東アジアの文化、社会、経済、歴史などに関する13科目と日本語基礎コースの4科目を開講した。他、課外活動では、落語家の立川志の春氏による英語落語、歌舞伎、茶道体験等を実施した。

同様に海外学生向けに例年1月に開催する「January Session in Japanese Studies」についても、24年1月10日から1月31日までの間、対面のプログラムを再開する。

オンラインでの学生交流機会の案内等がある場合も、随時Loyola掲示板で案内している。グローバルな学びに興味のある学生は、ぜひ定期的な確認を。

サマーセッション 4年ぶりに対面で開催

104カ国の国と地域から156人が参加



大人気のポップカルチャーのクラス。学生と海外からの参加者が交流できる有意義な機会となった。

【2024年春学期休暇以降のプログラム募集について】
交換留学は10月5日に24年秋の渡航開始分の学内選考願書受付を終了した。今後、11月、12月の学内選考を経て、年内に派遣学生を決定予定。24年2月、3月(春期休暇中)の海外短期プログラムは、10月中旬に各プログラムについて、説明会を開催する。参加を希望する学生は、説明会参加の上、参加を検討してほしい。次年度実施プログラムについては、24年4月頃に公開される募集要項を確認すること。

グローバル教育センターからののお知らせ
説明会(対面)を実施し、10月、11月ある学生は、ぜひ定期的な確認を。

【留学カウンセリング】
本学では常駐の留学カウンセラーが留学に興味のある学生を対象にカウンセリングを実施してサポートしている。1枠あたり30分の完全予約制で、本学学生なら誰でも利用可能。大学の制度に関する質問のほか、将来の留学に向けた疑問点や留学全般の相談も可能なので、積極的に活用してほしい。

体験談 交換留学

「オーストラリア・メルボルン大学」

阪本耕太郎(総グ3)



留学中は語学力や異文化適応力など様々な能力を日々の生活を通じて養うことができたが、中でもディスカッション能力は最も鍛えられたと思います。メルボルン大学では、講義とは別にTutorialと呼ばれるディスカッションの時間が設けられており、講義で吸収した内容を必ずアウトプットする環境が整っていました。

ディスカッションでは講義内容の理解に加えて追加課題の文献を複数読み込んでいたり、自分自身の意見や立場を明確に示すことが強く求められるため、当初はディスカッションまでは本当に苦難の連続でしたが、徹底的に準備をすることや遠慮せずに意見を述べること、日本での事例や個人的なエピソードを議論に交えることを意識したこと、毎回の議論に明確な意義を見出し、仲間と切磋琢磨して学ぶことができたようになりまし。

将来は海外駐在という形で今回の経験を遺憾なく発揮して、企業や社会に貢献したいと考えています。英語力はもろろんのこと留学中に養ったディスカッション能力は、将来私がグローバルに働く際には大きな力になると確信しています。

体験談 実践型プログラム

「グローバルリーダーシップ・プログラム」

長坂優希(総社2)



私は、実践型プログラム「グローバルリーダーシップ」に参加し、多くの移民が漁師として働いている港に行きました。そこで劣悪な労働環境を目の当たりにしたことは、とても印象深い経験となりました。

今回はホスト校のある台湾の輔仁大学で開催され、インドネシア、フィリピン、韓国、台湾、日本の5校のカトリック大学の学生が参加しました。

今年度はSDGsターゲット14「海の豊かさを守ろう」をメインテーマに、それぞれ海洋持続性と環境保護、原住民と海洋、移民と海洋の3つのサブトピックが設定され、関心のあるトピックについてグループでフィールドワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いました。

体験談 3+2プログラム

「スイス・Graduate Institute」

長澤明寿香(22年外英卒)



Geneva Graduate Institute(GI)では国際関係を専攻し、環境とサステイナビリティを専門としました。GIのInterdisciplinary Mastersは、経済や歴史などの一般的な分野の垣根を超え、複合的な観点で、課題解決に動かし得る学生が集まります。私自身、企業責任を研究テーマにし、企業・組織がどのように地球環境に貢献すべきか、それをどのように実現できるのかを考えてきました。

さらに、GIのプログラムの一環であるApplied Research Project(ARD)では脱炭素戦略に関わる提言を考案し、インターナショナルに移行に関する政

「スイス・Graduate Institute」の3+2プログラムは、卒業後は国際航空運送協会での脱炭素に関する仕事をし、今後社会的責任の大きい企業や団体のサステイナブルな経営をサポートしたいです。

受賞・採択

■みんなの人権・映像フェスティバル優秀賞(受賞日:5月30日)
倉持陽菜(子)(文新)

■みんなの人権・映像フェスティバル大賞(受賞日:5月30日)
小林風輝(文新4)

■令和5年度高志プロジェクト(採択日:4月28日)
角田佑一助教(神学科)
■電気学会特別活動賞(受賞日:5月25日)
宮武昌史教授(機能創造理工学科)

■令和5年度高志プロジェクト(採択日:4月28日)
若林利明准教授(経営学科)

